

# 社会科

## 【研究主題】

今を語り、明日を創る生徒の育成

## 【研究副主題】

現代社会を俯瞰し、学びをつなげる学習の展開

## 公開授業

学級：3年3組 授業者：中本 雄太



## 第二次世界大戦 ～民主主義は、なぜ戦争を止められなかったのか～

第二次世界大戦の終結から長い年月を経た現在においても、世界では戦争や紛争が絶えず、民主主義や平和の在り方は今日的課題として問われ続けています。被爆地長崎に暮らす私たちは、平和の価値を問い続け、その実現に向けて考え続けています。中学校学習指導要領社会の目標には、「社会的な見方・考え方を働かせ、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者」を育成することと示されています。このことから、社会科は、民主主義と平和との関係を問い直し、よりよい社会の形成について追求し続けることができる資質・能力を育む上で重要な役割を担っているといえます。

そこで、“**歴史的事実を根拠に民主主義と平和との関係を問い直し、自らの考えを更新しながら学びを深める授業**”を提案します。

これまでに生徒は、年間を貫く問い「民主主義は本当に平和を実現できるのか」と単元を貫く問い「なぜ戦争は起きるのか」を往還しながら、歴史的事象と現代社会とを関連づけて考察することで、自らの考えを深めてきました。当日は、「ワイマール共和国」「世界恐慌」「ナチス」に関する資料を手がかりに、「民主主義は、なぜ戦争を止められなかったのか」を多面的・多角的に考察します。そして、歴史的事象を根拠に自らの考えを吟味・更新することを通して、「民主主義が平和を実現するためには何が必要か」に迫ります。歴史的事象と現代社会を関連づけながら考え、語り合い、よりよい社会の在り方を問い続ける生徒の姿を御覧ください。

## メタ認知との関わり

年間や単元を貫く問いを追究する学習を進める中で、自らの認識の変容を振り返り、メタ認知を働かせる場面を設けることで、主体的に社会に参画しようとする態度を育みます。

「民主主義は本当に平和を実現できるのか」という年間を貫く問いに対する当初の考えと、本時を通して更新された考えを比較させることを通して、認識の変容を自覚し、メタ認知的活動がより一層促されます。

詳細はこちら

長崎大学教育学部附属中学校研究発表会

令和8年6月26日（金） 9:20 ～ 16:10

